■選択肢型国語Q＆Aまとめ　――質問の総まとめ

□どのように読み始めればいいですか?

■【大原則】は、「鉛筆を持って、ゆっくり読み始める」。

「評論」は、何が「問い」か、見つけよう、という構えでスタートします。「小説」は、「あらすじ」「人物」の設定・情報を確認するところから。「古文」「漢文」も同じで、評論系なら、「問い」、物語系なら「設定・状況」を確認します。

ゆっくり→加速、で。

□どんなところにチェックをつけるのですか?

■評論系なら「**切れ目**」と「**キーワード**」です。「キーワード」（繰り返される言葉）の変化は、切れ目の印。接続詞や「まず」「次に」といったつなぎの印も手がかり。

また、傍線自体が、構成を示している場合も多い。設問は、基本的には、例えば四段落構成なら、段落ごとにＡＢＣＤ（最後にまとめの問六）と作るものだからです。構成がわかれば、選択肢と、本文のどこを見比べるのかがはっきりします。

■物語系なら「**切れ目**」「**心情**」。切れ目とは、場面等の変化のポイントです。「心情」は、直接書かれている（嬉しい、とか「あはれなり」とか）なら必ずチェック。心情の変化に気づいたら、必ずチェック。そこも重要な「切れ目」です。

□時間が足りないのですが。

■無理に速く読んでも、結局理解できません。「ゆっくり→加速」で行く。あとは、評論なら、具体例はすばやく。物語系なら、会話を中心にたどると比較的速くなります。

■時間をロスする原因の一つは、【迷子】。選択肢を検討するとき、「本文のどこへ戻っていいか、わからない」状態になることです。それを防ぐには、一回目の読みで、正しく整理し、印や見出しをつけておくこと。一回目が勝負。あわてず、集中して、記憶に残る＋記録に残すように読む。

□評論など、抽象的なものに弱いんですが。

■「具体的に、実感をもってとらえよう」と意識する・ガンバル！

■漢語やカタカナ語を、なるべく「**和語**」に翻訳しつつ理解するようにする。例えば、認識＝知ること、現象＝あらわれ、恣意的＝かってに、主体＝見る人、する人、とかね。

■本文に例があるなら、それを頼りにする。ないなら、自分の**経験**の中で近いものを探す。だいたい、あれのことやな、と思う。

■「**対比（ちがう）**」と「**同じ**」を利用する。これとこれはさかさま、これとこれは同じ、というのに気づいたら、線を入れる。そうすることで、イメージが具体化されます。

□読んでいる途中に、主旨や筋を「見失う」のですが。

■評論では、「指示内容がわからなくなったとき」「新たな論旨が出てきて、筆者がどんな立場にあるのか、わからなくなったとき」に生じることが多いです。対処は、「指示内容を落ち着いて確かめる」「文章末近くの主張を見て、基本的な立場を確認する」。

■古文での典型は「主語」等人物の省略によるもの。敬語の区別が明確なら、それが有力な手がかり。名詞につく「御」にも注意！

■古文・漢文では、わからなくなっても読み進め、「確実にわかる箇所」から、逆に推定することも必要。「あらすじ」「注」に示されたことは、確実。また、どの選択肢にも書かれている事柄も、確実。

■「○いい意味」か「×悪い意味」か、を、手がかりに、話や論の大枠をつかむ。「うつくし」「なまめかし」なんてあったら、この人は「いい」という評価なんや、とか。漢文では、「賢い」人がよく出てきますが、誰が賢い人なのか、誰が愚かな人なのか、いい例なのか、悪い例なのか、などを見極めるだけでも突破口が開かれます。

□選択肢、候補二つから、どう絞りきればいいのですか?

■仮の答えを選びます。「これかな?」。「…だとしたら、どのように本文と対応しているかな?」と考え、**本文と**照らし合わせます。「選択肢のこの表現は、本文のここのいいかえだ」とか。納得いけば、それに決める。仮説検証的な方法。

■本文に根拠が見出しにくい感じのする小説の設問や「表現・叙述の仕方」を問う設問、のときも、この「選択肢→本文」の〈検算〉は、やるほうがいいよ。

■すごく迷うとき。「これだと思うんだけど、これじゃ**ない**と仮定して、×の根拠はあるか」を考える。もう一つの候補についても、考える。×の度合いの高そうなほうを落とす。

□話が全然わからないとき、どうすればいいですか?

■問4～6あたりの、「内容・主旨」に関する設問を手がかりにしてください。話の中心をこじ開ける。問いと答え（主張）、変化のポイント、がわかっただけでも、全体像が見えてきます。

■どうしてもあかんときは、取れる設問は取る、という戦略に切り替える。また、他の大問に力を注ぐ。10点が一つ出ても、残りが50点×3なら、8割さ！

□小説が苦手です。／　深読みしてしまいます。

■何となく読むのは絶対やめて、印を必ずつけてください。人物と心情に印つけるだけでもいい。選択肢も読み流さないで、「絶対この中に正解があるんやから、絶対当てるぞ」と強く強く思って一つ一つ読んで下さい。先に書いたように、仮の答えを、検証して下さい。選択肢（出題者）は、本文のどこを、どういいかえているのか。

■「深読み」系の人も、本文との対応を確認して下さい。ただし、直観も大切にして、細かいニュアンスにとらわれすぎないように。迷ったときは、最初のんで行く。

□最近、調子が悪いんですけど。

■国語の、特に、マーク式は、知識だけでなく、集中力が出来を左右します。スポーツに似たところが、少なからず、ある。調子を取り戻すための〈リハビリ〉を行って下さい。

■〈リハビリ〉の方法。調子の悪い分野の大問を一つ、時間無制限で、やる。落ち着いて、納得いくまで考えて、選択する。場合によっては、「三つだけ単語を調べてもいい」など、自己ルールを自分に許してもいいです。いい感じ、でやれたら、もうやらない。その感覚を保って本番へ。

■易しめの過去問などがいい。一回やったものでもいい。いい気分に持ち上げて☆